

平成30年度の取り組み状況について

1 損益見込みについて

(単位:百万円・%)

		29年度 (決算)	30年度 (計画値)	30年度 実績値① (4~12月)
経 常 収 益	1. 医業収益 a	8,162	8,401	6,122
	うち入院収益	5,711	5,845	4,327
	うち外来収益	2,156	2,226	1,637
	2. 医業外収益	907	906	371
	計 (A)	9,069	9,307	6,493
経 常 費 用	1. 医業費用 b	8,480	8,558	6,273
	うち給与費	4,670	4,728	3,476
	うち材料費	2,003	1,979	1,462
	うち経費	1,231	1,305	931
	うち減価償却費	547	513	380
	うち資産減耗費	4	4	1
	2. 医業外費用	497	487	98
計 (B)	8,977	9,045	6,371	
経常損益(C) (A-B)		92	262	122
医業損益(a-b)		▲ 318	▲ 157	▲ 151
総収益		9,076	9,307	6,493
総費用		8,984	9,045	6,371
純損益(E) (C-D)		92	262	122

※平成30年度の黒字化をより確実なものとするため、平成31年1~3月においても別紙の取り組みを実施していく。

2 BSについて(単位:百万円)

	H29期末	H30期末(見込)
資産の部	11,821	11,724
資産合計	11,821	11,724
負債の部	11,712	11,264
資本の部	109	460
負債・資本合計	11,821	11,724

3 現金預金について(単位:百万円)

	H29期末(※)	H30期末(見込)
現金及び預金	1,425	1,213

2 今後の課題について

課題	対策	
(1) 実入院患者の確保	① 実入院患者の確保	①-ア 地域連携のさらなる強化
	② がん患者の確保	②-ア 診療科の特徴 PR
		②-イ 最新鋭機器による放射線治療の再開
		②-ウ 外来化学療法件数の増加
(2) 費用の削減	① 経費 83,000 千円増加見込 (平成 29 年度決算比) 材料費 65,000 千円減少見込 (平成 29 年度決算比)	①-ア 後発医薬品の積極的採用
		①-イ 診療材料の共同購入
		①-ウ 必要度・緊急度を勘案した修繕の予算執行

(1) 実入院患者の確保に向けた取り組み

① 実入院患者数の確保

H30 年度は、実入院患者数は前年度上期と比較して 53 人減少しており、下期において医業収益を確保するための取り組みを要する。

①-ア 地域連携のさらなる強化

上期では、紹介・逆紹介の推進に取り組み、前年度に比べ、紹介患者数、逆紹介患者数はともに増加している。

単位:人	H29 上期	H29 下期	H29 合計	H30 上期	H30 下期 (見込)	H30 合計 (見込)
紹介患者	2,929	3,171	6,100	3,215	3,480	6,695
逆紹介患者	4,008	4,348	8,356	4,671	5,067	9,738

H30 年度月別 紹介及び逆紹介の状況

項目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
紹介率	56.6%	62.2%	57.4%	66.1%	58.4%	61.8%	63.5%	63.5%	72.8%	62.3%
逆紹介率	79.9%	97.0%	91.3%	86.2%	81.2%	93.7%	87.3%	98.0%	99.6%	89.9%

院内における逆紹介推進の取り組み強化によって、H30 年度下期の紹介患者数は、前年度と比較して約 300 人増となる見込み。そのうち、約 160 人(紹介患者の入院率は 54.0%)が下期の実入院患者数の増につながる。また H30 年度全体で紹介率・逆紹介率それぞれ 50%・70%以上を達成し、H31 年度に地域医療支援病院となることで増収を図っていく(年間約 60 百万円)。

実入院患者数の推移

	上期	下期	合計
H29	4,051	4,052	8,103
H30	3,998	* 4,168	* 8,166

*見込値

下期には、紹介患者・逆紹介患者をさらに増加させるため、また、地域医療機関との連携を強化するために、病院長を筆頭に本院幹部職員が各地域医療機関を訪問し(11~12 月)、意見等を吸い上げる開業医等訪問を継続して実施していく。

- ・高岡市民病院連携医療機関との密接な連携
- ・患者支援センターの活用による紹介・逆紹介の推進

⇒新たな患者を紹介する好循環を生み出し、実入院患者数の増を図る。

② がん患者の確保

がん患者全体数としては前年度比でほぼ同程度であるが、本院が強みとしている女性がんの患者数が増加しているところである。

②-ア 診療科の特徴 PR

地域に PR するため出前講座を開催し(開催件数:H29 上期 18 件⇒H30 上期 25 件)、所属している医師や診療の特徴を地域に伝えられるツールとして病院広報紙を会場で配布しているほか、本院の強みである産婦人科の紹介リーフレットを作成、配布。

⇒女性がん手術件数(4月～12月) **H29** 92 件 ⇒ **H30** 131 件

また、広報紙の内容もがんに特化したページを設けるなど、病院の特色の PR のため広報機能をさらに強化する。

②-イ 最新鋭機器による放射線治療の再開

放射線科の収益(稼働額)

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H30	4,827	6,249	4,979	5,401	9,866	8,891	11,852	10,728	9,895	72,688
H29	5,271	5,217	6,073	5,308	5,567	5,621	5,395	7,023	5,508	50,983

H30年7月から再開した放射線治療に係る専門医師の勤務日を12月からは週1日から週2日へ増加し、休止中に減少したがん患者の集患をさらに目指す。

②-ウ 外来化学療法件数の増加

収益の高い外来化学療法の件数が増加しており、収益についても前年度比(上期ベース)で約9,400千円増加した。今後もさらに入院も含めた化学療法件数を伸ばし医業収益の確保に向け積極的に実施していく。

化学療法件数

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H30	157	187	170	167	197	172	219	180	167	1,616
H29	170	168	163	160	188	171	175	178	178	1,551

外来化学療法、がん相談支援など、包括的がん医療センターの機能を強化することにより、がん患者とその患者家族を総合的にサポートする体制をさらに充実させる。

・がん患者から選ばれるための地盤を強化⇒新規入院患者を獲得する

(2) 費用の削減について

①-ア 後発医薬品の積極的採用による薬品費の抑制

薬事委員会主導による後発医薬品と先発医薬品の置き換えに取り組む

単位:%	H29.3	H30.3	H31.3(見込)
後発医薬品使用割合	91.03	91.83	92.00

※国(厚生労働省)では、平成30年度から32年度の早い時期に数量ベースシェアで80%を目標としている。

①-イ 診療材料費の共同購入の実施

物品管理委託業者を通じた全国規模での参画医療機関による一部診療材料の共同購入を実施している。

①-ウ 必要度・緊急度を勘案した修繕の予算執行

修繕計画に基づく必要度・緊急度等を勘案した修繕を実施